

工大広報

2014年4月3日発行(年4回発行)



50th ANNIVERSARY TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2014年、東北工業大学は創立50周年を迎えます。



ご入学おめでとう
新入生の皆さんへのメッセージ
在学生によるキャンパス紹介

ご入学おめでとうございます。



学長 ^{みやぎ}宮城 ^{みつのが}光信

東北工業大学に入学された学部学生、大学院生の皆さん、おめでとうございます。
心からお祝いいたします。

皆さんは、将来、社会を支える人として、東北はもちろんのこと、日本あるいは世界で活躍することになるでしょう。今将来に向けて、その第一歩を歩みはじめたということが
できるでしょう。人は自分の関わる仕事によって、「工夫の喜び」「開発の喜び」「発見
の喜び」、そして「創造の喜び」と「人に仕える喜び」を得ることができます。

皆さんに期待されていることは、人間の生活を豊かにし、人類福祉に貢献すること
です。そのためには、人間に対する深い洞察力を身につけ、人とは何かを理解すること
が必要です。心のこもった、人間性あふれる知識や技術を身につけた社会人になるため
に、これから自分自身を鍛え、訓練し、成長されることを願っています。

大学で学ぶ時間は限られています。しかし学ぶことは一生続きます。これからの毎日
は、多くの知識を得ること以上に、ものの考え方や学び方を確実にする、とても大切な
時期になるでしょう。理解の深さやスピードは人によって異なります。それでいいので
す。皆さん一人ひとりが本当に納得するまで、あわてず、あせらず、あきらめず、忍耐強く
勉学に励んでください。そして、多くの人に接し、多くの友人を作り、東北工業大学での
学生生活を、自分の一生のなかの、かけがえのない時だと誇りに思えるよう、有意義に
過ごしてください。

皆さんの活躍を心からお祈りしています。

工学部長

明るく楽しく励みましょう！

^{わたなべ}渡邊 ^{ひろのり}浩文
建築学科 教授



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

教職員一同、皆さんのご入学を心より歓迎します。

本学は東北地方屈指の伝統と実績を誇る大学です。卒業生は
各界の第一線で活躍されており、社会からの皆さんへの期待は
極めて高いものがあります。私たち教職員は、皆さんが社会にて
十二分に活躍できるよう専門教育に努めます。従って皆さんも、
本学の教育を信頼し、そして何よりも自分自身を信じて学修に励
んでいただきたいと思います。

もちろん大学は学修の場だけではなく、各地から集う同
窓生とのさまざまな交流や課外活動は、日々を豊かにしてくれま
すし、卒業後も公私にわたって続くことでしょう。

工学部では特に高度専門学修となるため、それなりに厳しい取
り組みが必要になると思います。それでもそれに、明るく楽しく取
り組んでいただきたいと思います。

ライフデザイン学部長

よく学びよく遊べをモットーに 充実した大学生活を

^{いしかわ}石川 ^{よしみ}善美
安全安心生活デザイン学科 教授



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

ライフデザイン学部の教職員一同、心から皆さんのご入学を歓迎
いたします。

これから4年間、勉学に課外活動に、そして遊びに、思う存分、大
学生生活を満喫してください。

ライフデザイン学部はこの3月に漸く3回目の卒業生を送り出し
ました。まだまだ歴史の浅い新しい学部、というイメージが拭えま
せんが、逆に言えばそれだけフレッシュな魅力に富んでおり、未知
の可能性に溢れている、と言ってもよいでしょう。そのような学部で
すので、各学科で追求する学問分野はいずれも現代社会で必要とさ
れているテーマばかりです。学べば学ぶほどおもしろくなること、間
違いありません。しかし、そのためには、はじめから範囲を狭めるこ
となく、広い視野で基礎を学び、それぞれの専門性を自ら高めてい
くことが必要です。我々教職員はそのための手助けを惜しみません
ので、遠慮なく研究室や事務室のドアをノックしてください。



ユビキタス社会を支えるエレクトロニクス

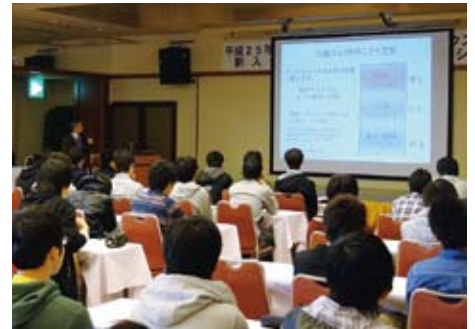
まるやま つぎと
丸山 次人
学科長・教授

今日私たちは、コンピュータが生活に溶け込んでいるユビキタス社会に暮らしています。スマホ、家電、自動車など身の回りのほとんどの製品は、コンピュータが組み込まれ知能化され、安全で便利な生活を提供してくれます。このユビキタス社会を支えているのがエレクトロニクス（電子工学）です。

本学科では、電子工学を基盤として、「知能化」させるための教育・研究を充実させております。教育のモットーは「実践的教育」と「個の尊重」です。

新入生には、入学後直ぐに学外オリエンテーションを行い、大学生活の心構えと友だち作りの場を提供します。さらにセミナーや研修を通じて実践的教育に努め、4年後は全員が卒業研修の成果を発表します。

また個の尊重の下、システム・センシング・デバイスの3つのコースを用意し、学生の専門知識のレベルアップを図り、実質100%の就職内定率を維持しております。



新入生
学外オリエンテーション



卒業研修発表会



社会から求められる技術者を目指して

むらおか かずのぶ
村岡 一信
学科長・教授

皆さんが毎日便利に使っているスマートフォンや携帯電話、インターネットなどは、膨大な情報通信インフラによって支えられています。このインフラを維持し発展させられる高度な情報通信技術者が、今、社会から強く求められています。

本学科では、情報技術と通信技術の両方を総合的・体系的に学べる充実したカリキュラム、経験豊かな教授陣、ITシステムラボラトリーなどの最新の実験設備により、社会からの要請に応えられる体制を整えています。この環境を活かすには、日々の予習・復習はもとより、自分で考え積極的に学ぶ習慣を身に付けることが大切です。4年生の最後には卒業論文とポスター形式の発表会でその成果が試されます。有意義な学生生活を過ごし、社会から嘱望される技術者を目指して頑張ってください。大いに期待しています。



研修生ポスター発表会



千里の道も一歩から将来の夢に向かって

いしい さとし
石井 敏
学科長・教授

建築学の世界へようこそ！ 建築学はとても大らかで、拡がりや深みのある学問です。皆さん一人ひとりを惹きつける内容、個性が発揮できる分野が必ずあります。意欲を持って楽しく学んでください。

大学での建築の学びの魅力は、学内外、社会や街全体を学びの場と時間とすることが出来る点です。学内での講義や演習を通してしか学べないこともあれば、外に出て自分の目と足で確かめながら学ぶべきこともたくさんあります。建築学科では、各授業科目の充実とともに、海外留学や学外での活動参加、大学院進学など、皆さんの視野を広げ、感性を磨く活動の場を積極的に提供し、また支援しています。

夢の実現のために、目の前にあることを一歩一歩、手を抜かないで一生懸命取り組みましょう。結果は必ず付いてきます。4年後の自分をつくるのは「今」の取り組みであることを忘れないように頑張ってください。私たちも精いっぱい応援します。



設計作品のプレゼンテーションと質疑応答



都市マネジメント学科いよいよ完成

こいで ひでお
小出 英夫
学科長・教授

ご入学おめでとうございます。都市マネジメント学科は4年目を迎え、全学年が揃い「完成」しました。学科前身である土木工学科、建設システム工学科を含めて48年目を迎えます。多くのOBとOGが、公務員や企業の技術者・まちづくりの専門家として、震災からの復旧・復興で活躍しています。このような業務に携わる人間を育てる本学科では、他学科と異なり、「倫理（“道徳”と考えてください）」系科目を必修科目としています。あなたが将来目指す仕事には強く「倫理」が要求されるからです。このことは良く覚えておいてください。

大学での授業がはじまると、震災の影響により、社会全体が特にこの学科で学ぶ皆さんに大変期待していることを実感できると思います。学科の一員として、将来の目標に向かって一生懸命に学んでくれることを願っています。



実習「都市研究（仙台街歩き）」の一環としてマネジメント体験



健全で持続可能な社会実現のリーダーに

みやもと ゆういち
宮本 裕一
学科長・教授

ご入学おめでとうございます。これからの勉学や大学生活への期待に胸を大きく膨らませておられることと思います。

環境エネルギー学科は、エネルギーや経済がからみあう現代の複雑な環境問題を解決するために、環境保護、エネルギー利用、経済成長の調和をめざして教育・研究を行う新しい文理融合の学科です。しかし、現在の世界の経済状況は厳しさを増しており、これが私たちの毎日の生活にも影響を与えています。このような時こそ自分を見失うことなく、じっくりと着実に自分の価値を高めていく努力が大切です。

学科では、工学のみならず、自然科学、社会・人文科学を含めたさまざまな学問分野の知識や技術を養うことのできる教育プログラムを皆さんに提供します。熱意ある若者が集い、健全で持続可能な社会実現に向けて、教職員とともに進めていきましょう。



1年生学外研修での自動車工場見学



何事にも興味を持ち、学び続けること

もろずみ きよたか
両角 清隆
学科長・教授

クリエイティブデザイン学科は、デザイナーやデザインを理解して製品やサービスや情報を生み出す幅広い分野で活躍する人材を育成します。その学びは、1年生での基礎的な造形教育や教養教育にはじまり、1年生の最後にはプロダクトデザイン、ビジュアルデザイン、エクスペリエンスデザインの3つのコースから選択を行い、徐々に専門的な能力を高めていきます。3年生後半には、身につけた実力を伝えるためのポートフォリオ（作品集）を用意して就職活動をはじめます。4年生の最後には、じっくり制作・研究に取り組んだ成果をせんだいメディアテークで発表・展示します。この間、幅広い教養や高い専門の能力を学び続けることで、驚くほど人間性豊かでクリエイティブな人間へと成長します。必要なのは「好奇心」と「継続性」です。皆さんも、学び続け、一緒に未来を切り開いていきましょう。



春のデザインツアー 松島・観瀾亭で



より多くのことに気付きましょう

こやま ゆうじ
小山 祐司

学科長・教授

ご入学おめでとうございます。私ども教職員一同、新たに学科の一員となられた諸君とともに、大学生活を迎えることを楽しみにしております。

「判ることが当たり前で、判り易い物事がほとんど」であった諸君の環境が、学生生活さらに社会生活を経験することで、「判らないことや難しい物事がほとんど」という現実、気付かれることでしょう。

私どもの学科では、これらの現実に向き合い、より良い「生活の場」の構築・維持を目指し、快適な住まい空間をデザインしたり、地域コミュニティが良く機能するためのアドバイスをしたり、心身の健康を保つための実践的なアドバイスをしたりしています。

新入生諸君が、自律的かつ積極的に、感じたり、行動し、時には失敗を恐れず行動されることを、大いに期待しております。



仙台北下の奥州街道沿いの町家・町並み探索（仙台市若林区南材木町付近）



地域イベント参画
（雪んこまつり：
仙台市秋保地区）



地域イベント参画
（西多賀寿大学：仙台市西多賀市民センター主催）



対話や議論を大切にしよう

みやそね みか
宮曽根 美香

学科長・教授

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今の日本は国内外でさまざまな問題に直面し、閉塞感があります。私たちは、自分たちの立ち位置を現実を踏まえて認識し、どのような社会の構築を目指すかについて、はっきりとしたビジョンを持つことが望まれます。

経営コミュニケーション学科では、組織や地域社会に貢献する人材を育てるため、経営力、情報処理能力およびコミュニケーション能力を養います。教員はそれぞれの専門知識や経験を活かし、皆さんをサポートします。

何らかの問題提起をして問題解決に向かうためには、対話や議論が必要です。大学では、大いに学び、さまざまな出会いをし、異なる意見とのコミュニケーションを通して自分を鍛えてください。



チャレンジアブロードプログラム現地研修



新しい視界を開くために

うめだ けんたろう
梅田 健太郎

共通教育センター長・教授

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。共通教育センターは皆さんに良識ある市民として必要な素養を身に付けさせることを目的とした「教養教育科目」を担当します。また皆さんがこれまで身に付けてきた基礎学問と、大学で学ぶ高度な内容の「専門教育科目」とがスムーズに結びつくようにサポートしたり、「manabiなんでも相談室」で学習上の悩みごとの相談に応ずる活動もしています。

さらに学生も参加できる公開講座のシリーズ「共通教育センター基礎セミナー」、共通教育センターの教員が指導する「課外セミナー」（研究会、読書会、資格取得のための講座）などで多彩なメニューを用意しています。

「教養教育科目」の授業やセミナーでは、新鮮で正確な知識・情報や、多様で思いがけない考え方・ものの見方と出会うはずで、どちらも積極的に参加することで、新しい視界を開くことができるでしょう。



試験前の manabi なんでも相談室



manabi なんでも相談室入口

東北工業大学には、八木山・長町の二か所にキャンパスがあります。
いずれのキャンパスにも、緑豊かな敷地の中に、学生の皆さんが快適な
キャンパスライフをサポートする各種施設があります。
このページでは、4名の在学生が紹介します。

C A M P U



Tohtech LOUNGE (1号館1階)

開放的なスペースで、パソコン、新聞、冊子類が自由に閲覧でき、打合せや自習の場として活用しています。また、証明書自動発行機からは「学割証」や「各種証明書」が入手できます。

1号館前中庭

天気の良い日には学生が、お弁当を食べたり友だちと話をしたり、楽しみ方もいろいろある憩いの場所です。



附属図書館本館

主に理工学の専門教育に直結した蔵書が多く、学習・研究をする上で大いに活用できます。



学生サポートオフィス (1号館1階)

それぞれの窓口で担当の職員にアドバイスを受けることができ、快適な学生生活をバックアップしてくれます。



食堂 (4号館地下1階)

営業時間が長く、食事はもちろん、友だちとの語らいの場としてよく利用する場所です。また、同じフロアには売店もあり、買い物にとっても便利です。



ウェルネスセンター保健室 (1号館1階)

健康診断および事後指導、栄養指導、健康相談、応急処置を行ってくれます。血圧計・身体測定器を設置しているので、気軽に利用できます。



新入生の皆さんも、
おいに利用しよう。
ここで紹介した以外にも、
楽しめる場所もたくさん
ありますので、僕たち学生に
聞いてください。

すずき たかひろ
鈴木 隆弘さん

情報通信工学科 2年



友だちと語り合う場所や
キャンパスライフを
サポートしてくれる
施設を紹介します。

さとう ゆうや
佐藤 佑哉さん

知能エレクトロニクス学科 2年

長町 キャンパス

新入生の皆さんも、
自分だけのお気に入りの
場所を探して
みませんか。

私たちのお気に入りの
スポットを紹介します。
見晴らしの良い場所などの
癒しの空間もあります。



学生ラウンジ (4号館1階)

パソコンが自由に利用できるオープンスペース。友だちとの語らいの場であり、同じフロアに軽食コーナーも設置されているので、授業の合間にリラックスできます。

かじわら みほ
梶原 未歩さん
経営コミュニケーション
学科 3年

こまつ かな
小松 加奈さん
経営コミュニケーション
学科 3年



事務室 (4号館1階)

学生生活をバックアップしてくれる窓口です。各種証明書や奨学金の申請手続き、就職・進学、授業や試験など勉強全般、クラブ活動やアルバイトの相談も受け付けてくれます。



生協売店 (3号館1階)

日用品から授業で使う教材まで、幅広く取り揃えてあります。また、下宿・アパートなどの紹介もしてくれます。

附属図書館分館 (3号館2階)

ライフデザイン学部の専門分野の図書が充実しているので、よく利用します。明るく、開放的な空間で気持ち良く読書や勉強ができます。



体育館

体育の授業の他、レクリエーション、トレーニングの場として使用できます。利用する場合は、事前に事務室に使用の手続きを取れば利用可能です。



学生食堂 (学生ホール)

広くて明るく、味自慢の食堂です。一番人気の「キムチ丼」は味もボリュームも、値段も満足の一品です。



研究室で学んだこと

工学部

知能エレクトロニクス学科

水野研究室



メカトロ技術の修得に向けて

みずの ふみお
水野 文雄 准教授

当研究室では、3年生までに学んできた知識と技術の実践を目的として研修テーマを設定し、実施しました。

研修生たちが選択したテーマは、「生体情報モニタリング用ウェアラブルデバイスの開発」、「室内用飛行船の製作」、「レーザー式測域センサを用いたロボット制御」、「二輪型倒立ロボットの制御」、「インドア・プレーンの製作」などです。

各テーマの遂行には、それまで学んだ知識だけでなく、実際に手を動かし形作る技能や新たな技術について積極的に自ら調査・習得する必要があります。

このような、研修課題に取り組む姿勢は社会人になっても重要となりますので、研修で得た経験を活かして仕事に従事して欲しいと思います。



卒業研修に取り組む研修生たち



レーザー式測域センサを用いたロボットの研究

おばら けいた
小原 敬太

卒業研修では、本研究室で開発を行っている「トイレ補助システムである全方向移動トイレの自動化に関する研究」に携わりました。

移動トイレは、身動きがしにくい高齢者をユーザとして開発しており、ボタン一つで使用時に使用者の元まで自律走行で来ることを目標としています。私は、その第一歩としてレーザー式測域センサによる周りの状況確認を進めました。センサを扱い、データを取得するためのプログラミングや駆動回路製作などについて重点を置き研修を進めました。

新しいプログラミング言語や、TCP/IP通信の実装などさまざまなことを学び、その都度新しい知識を修得することができました。

最終的にこの移動トイレが完成し、世の中に役立つことを心から望んでいます。



回路基板製作中

工学部

情報通信工学科

木戸研究室



音に関する研究テーマ

きど ひろし
木戸 博 教授

当研究室は、音に関するテーマで卒業研修を行っています。

プログラミングに興味を持つ学生たちは、音声資料用データベースシステム構築などのソフトウェア開発に、実験系に興味を持つ学生たちは、不快な音の要因を調べるなどの聴取評価実験に取り組みました。後者の実験系は、私の専門である声を聞いたときの印象を法科学に活用する研究（耳撃証言の有効活用）に深く関わっております。

今回、話者年齢の推定に関する研修テーマを選んだ吉田さんは、26年度、本学の大学院に進学することが決まっており、本腰を入れてこの研究に取り組むことになりました。私も気合いを入れて、研究成果を学会で発表できるところまで、厳しく吉田さんを育てていく所存です。



平成25年度の研究室メンバー



充実した卒業研修

よしだ ゆうき
吉田 裕貴

私が所属する木戸博研究室では、音波や声紋などの音声に関する研究をしています。卒業研修では、音声を聞いたときに受ける話者の年齢印象と実際の年齢は必ずしも一致しない要因の1つである「声の高さ」についての研究を行いました。

聴取評価実験や分析を通して、意識的に声の高さを変化させても、声が高くなると若く、低くなると老けて聞こえる傾向があり、「声の高さ」が話者の年齢印象に影響を与える結果が得られました。

聴取実験について、同研究室の学生などの協力で感謝したいと思います。研究室では、互いに助け合いながら卒業研修を進めることができました。研究室で学んだ知識や経験を、今後に活かしていきたいと思っています。



無響室での音声収録



卒業研修を通して学ぶこと

いしい さとし
石井 敏 教授

平成25年度の研究室の卒業研修は、論文3題、設計4題でした。論文では震災に関わる福祉仮設住宅の研究などがまとめられました。設計では各自が課題やテーマを発見・設定することからはじめ、課題を解決しながら建築として表現しました。

論文も設計も表現の仕方は違えど、丁寧に調べ、理論的に考え、客観的に表現し、口頭で発表する（伝える）ことが求められます。研修を通して、時間管理とその有効利用（タイムマネジメント）、他者に的確に伝えることの重要性和難しさは十分に体感し理解できたことでしょう。

大変だった…、という思いとそれを乗り越えた経験が大学時代の大きな成果です。それらが良い思い出となり、将来の糧となることを心から期待しています。



卒業研修発表



4年間の大学生活を振り返って

さとう すみれ
佐藤 すみれ

大学生活を振り返ると、長い時間のようにあっという間に過ぎ去った4年間でした。学習、課外活動においてさまざまな貴重な体験をして、多くのことを学びました。特に4年生秋の台湾への留学では、留学しなければできない貴重な経験をすることができました。留学は一つの例ですが、積極的に自分からしてみたいことに挑戦することで学習の幅を広げてきました。

また、設計の授業やサークル活動にも意欲的に取り組み、友だちや先輩からも多くの刺激を受けました。このような経験を通して、広い視野で、ものごとを考える力がついたことを実感します。

春からは大学院に進学します。大学院でも挑戦する姿勢を忘れずに、たくさんの良い経験を積み、充実した2年を過ごしたいと思います。



全力で取り組んだ卒業設計の作品



知的好奇心のスイッチが入った

いまにし はじめ
今西 肇 教授

当研究室では、地盤工学・地盤環境工学・マネジメント・防災減災の4分野について卒業研修生（4年生）の4名が挑戦しました。

研究テーマは、①地盤沈下の激しい軟弱な粘土の研究②人工的に作った土の研究③震災復興における住民意識変化の調査④地理・地盤・住民情報データベースを用いた災害避難経路の研究でした。

研修生全員は、現地踏査、データ収集、各種講演会への聴講、最先端研究委員会での発表や討議に精力的に参加しました。

その結果、研修生に知的好奇心のスイッチが次々と入り、自ら考えられる土壌を醸成できたことは教員としてとてもうれしい限りです。今後は社会に出てのびのびと活躍してほしいと思います。



1対1のゼミナール



実感した研究の重大さ

つきだて ゆうた
月館 優太

軟弱な粘土で構成された地盤は、地盤沈下が発生しやすく、人々の生活に大きな影響を与えます。

私は今西肇研究室で粘土地盤の地盤沈下対策に関する基礎的研究を行っていました。

卒業研修では、40年以上地盤沈下が続く塩竈市新浜地区を対象に、土質試験を用いて同地区の粘土地盤の性質把握を行いました。試験を行うだけでなく、実際に現地へも赴くことにより、研究の重大さを実感したり、取り組む姿勢をあらためることができたりと、自身の成長が感じられました。

研究の最終目標は、同地区の地盤沈下対策案を提案することであるため、本学大学院進学後も研究のさらなる発展に努めていきたいです。



最先端の試験装置を操る

工学部

環境情報工学科（現 環境エネルギー学科）

齋藤研究室



好きこそ物の上手なれ

さいとう 齋藤 てるみ 輝文 教授

武澤さんが書いたように、彼の研究テーマは、文部科学省主催のサイエンス・インカレに採択され、2014年3月1日（土）、2日（日）に幕張メッセ国際会議場で発表し、多くの人の関心を集めました。

サイエンス・インカレには、当研究室から別のもう一件のテーマも選ばれ、2年連続で2件の発表という名誉な伝統が生まれてつあります。

人間は誰にも好き嫌いがあり、嫌いなことには関心が湧かず、好きなことには夢中になれるものです。だったら研究を好きになりましょう。研究と聞くと難しく感じるかもしれませんが、要は分からないことを少しでも分かるように、できたら誰も思いつかないようなアイデアで探求するということです。あなたもぜひ、楽しく研究する仲間に加わりませんか。



サイエンス・インカレでの発表ポスターの前にて



一心不乱

たけさわ 武澤 みなと 港斗

私の卒業研究は「太陽電池エネルギー変換効率の波長依存性」というテーマで行いました。太陽光のようなさまざまな波長から成る白色光でなく、一つの波長のみから成る単色光を入射すれば変換効率は上がることを実験的に確かめることが目的でした。実験が上手くいかないこともありましたが、無事終えて安心しています。このテーマでサイエンス・インカレに出場することもでき、嬉しく思います。

この大学ではやる気があれば何でもできる環境であると感じています。そこで、私はこれまで以上に自分の専門性を高め、技術を磨いてくために大学院に進学します。そして、大学院修了後には太陽光発電もしくはエネルギー関連の職に就きたいと考えています。



太陽電池エネルギー変換効率の波長および強度依存性の測定

ライフデザイン学部

クリエイティブデザイン学科

古川研究室



グラフィックデザインの可能性を追求

ふるかわ 古川 てつや 哲哉 講師

グラフィックデザインとその周辺のさまざまな表現を、試行錯誤しながら掘り下げること、デザインについて考察することを研究室の柱として掲げています。テーマは所属学生がそれぞれに設定します。

田中さんは、多くの調査と制作を地道に積み重ねました。制作した図版は100点を軽く越え、その中から視覚的な工夫を付与することで、本を見る読者だけでなく、読者を見る第三者という、メタな視点を伴ったブックカバーにたどり着きました。

発想自体にまだまだ展開の余地はありますが、最後まで諦めずに考え、つくり続けた努力は、今後も活かせることでしょう。デザインによって、より良い未来を切り開いていくことを期待しています。



研修発表



4年次研修を通して

たなか 田中 てつし 鉄俣

私は「ブックカバーの提案」というテーマで卒業研修を行ってきました。ブックカバーは本を傷や汚れから保護するために巻くのが一般的だと思いますが、ただ本を保護するだけでなく、読書中や本が机の上に置いてある時に本ではないものに見えたりなど、視覚的な面白さがあっても良いのではないかと考え、制作をしてきました。

また、前期に研究室で参加した「TOKYO ART BOOK FAIR」というイベントでは、実際に自身が制作したブックカバーを販売して好評を得ることができました。

自分の作品を他人に見てもらうこと、他人の作品を自分で見て回することは、今後も、もの作りをする上で刺激を受けられる良い機会なので大切にしたいと思います。



研修作品

福留研究室



卒業研修から学んでほしいこと

ふくとめ くにひろ
福留 邦洋 准教授

研究室では東日本大震災に関連するテーマを選ぶ卒業研修（卒研）生が多くなっています。大場さんは復興に関する情報発信、情報共有の手段として宮城県内において発行されているまちづくり新聞に着目しました。もともと本人が地域新聞、ミニコミ紙に関心を持っていたこともあり、丹念に紙面を分析しようという姿勢がうかがわれました。

ある事象や分野の問題背景を考える、資料を集め、整理する、第三者にもわかるようにまとめるといった作業は、社会人になってからも必要なことです。4年生の皆さんには、卒研の完成が最終ゴールではなく、卒研を通して得た知識、手法などを今後も生かしてほしいと思います。



卒研に関連したワークショップ（消防団活動について）



地域新聞から考える震災復興

おおば めぐみ
大場 愛

私は震災復興に関連して発行された地域新聞に興味を持ち、その紙面構成の特徴について明らかにすることを研修目的としました。対象とした宮城県沿岸の地域だけでも想像していた以上に数多くの地域新聞が発行されており、さらに発行団体によって紙面構成が大きく違っていることが印象的でした。

分析にあたり、内容を正確に理解し深めるため、毎日少しずつでも継続して目を通すことに心がけました。

作業過程では苦しい時もありましたが、研究室の同級生と励まし合いながら、何とか課題を達成することができました。卒業後も、地域新聞を通して知った各地の復興に関心を持ち続けたいと思います。



紙面分析結果をまとめたパネル

猿渡研究室



創造することの苦しみと喜びを感じてほしい

さるわたり まなぶ
猿渡 学 准教授

猿渡研究室の平成25年度卒業研修は、写真による表現が2件、イラストレーションや空間演出が1件、自主制作による映画製作が1件、復興関連のドキュメント映像制作が1件でした。写真表現は、地元の風景に目を向けたもの、卒業制作のためにインドに渡ったものと幅広いものでした。また、イラストレーションは独特の世界観を持ちながら、ターゲティングを意識したもので、本学科らしいアプローチでした。震災復興関連は気仙沼復興商店街の様子を丹念に記録するものであり、震災より3年が過ぎ去ろうとする今こそ、記録の必要性を痛感させるものになっていました。自主制作映画は大学と学生との関係を逆説的に暗喩的に描く問題作、力作でした。本研究室の学生は、何かを創造することの苦しみと喜びを感じた卒業研修制作だったと思います。



卒業研修最終プレゼンテーション



つなげることができた卒業研修

あんざい あみ
安齊 亜美

本学はアットホームなところが特徴で、とても学びやすい環境であつたと思います。先生、先輩、後輩と年齢に関係なく気さくに話ができ、さまざまな角度から意見を取り入れることができるため、人間として大きく成長できたのではないかと思います。

私が行っている卒業研修は、東日本大震災直後より、特に被害の大きかった気仙沼内湾地区の復興支援として、「南町紫市場」の記録や映像を撮り続けるプロジェクトでした。この活動の私なりの成果は、先輩から引き継ぎ、3年続くこの活動をしっかり後輩に受け継ぐことができたことと、南町紫市場だけではなく気仙沼全体の人と関わったことです。さまざまな壁はありましたが、完成後は最後までやり遂げられた達成感でいっぱいです。

卒業後は、ここで学んだコミュニケーション能力を生かし、会社ナンバーワンの営業ウーマンになりたいです。



被災地気仙沼での取材活動

平成25年度課外活動優秀者表彰

平成25年度の課外活動において目覚ましい活躍をし、優秀な成績を挙げた団体と学生個人の栄誉を讃える表彰式が、2月12日（水）八木山キャンパスで行われました。

表彰式では宮城光信学長より表彰状の授与ならびに記念品が贈呈され、その後の懇親会では学長はじめ諸先生と懇談を行いました。表彰された団体・学生のさらなる活躍が期待されます。（学年は受賞時）



〔団体〕

クラブ名	大会名または活動内容	成績など
準硬式野球部	東北地区大学準硬式野球連盟春季リーグ戦 東北地区大学準硬式野球連盟秋季リーグ戦 東北地区大学準硬式野球連盟秋季リーグ戦入替え戦	2部1位 2部1位 1部昇格
水泳部	第21回宮城県スプリントリレーフェスティバル 第50回宮城県スポーツ祭典 宮城水泳競技大会 他	男子 50m背泳ぎ 第1位 50m平泳ぎ 第1位 50mバタフライ 第1位 50m自由形 第1位 200mフリーリレー 第1位 200mメドレーリレー 第1位 他
ボランティア部	児童館クリスマス会、冬の学習寺子屋、雪んこまつり2013、盲導犬ふれあい募金活動、立ち直り支援活動、ポラリス宮城活動報告会、春の療育キャンプ、ガチスカ in 仙台、JR陸前高砂駅 防犯キャンペーン、足湯ボランティア、みやぎマモルンジャー登録会、名取川探検サポートボランティア、ポラリス宮城結団式、七夕祭り環境美化活動、夏の学習寺子屋、広瀬川灯ろう祭り巡回補導、夏の療育キャンプ、児童館に泊まって遊ぼう、全国少年警察学生ボランティア研修会、八木山神社神輿担ぎサポートボランティア、県下一斉街頭補導活動、長町ザ・モール街頭補導活動、若者が参加する地域防災活動、児童館秋祭りサポートボランティア、在宅児親子交流会、ティナのクリーンアップ大作戦、JR仙台駅 防犯キャンペーン、市内幼稚園 防犯教室、万引き防止キャンペーン、若林区民ふるさと祭り、仙台市PTAフェスティバル配布物作成、防犯ナイトパトロール 他	
環境学生サークル たんぽぽ	ガチスカ(全国同時多発ゴミ拾い)、トヨタアクアフェス(ヨシ原再生)、下水道写真展、緑のカーテン(壁面緑化)、全国ギャザリング(環境活動学生のワークショップin福島)、環境啓発活動(角田市)、環境啓発ボランティア(ユアテックスタジアム)、カーボンオフセット、リリパック(容器のリサイクル活動)、環境フォーラム、トヨタアクアフェス(ヨシ刈取り)	
知能エレクトロニクス学科	第4回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト(iCAN13) 学部「仙台・宮城」サイエンス・テイ2013	優秀ポスター賞 産総研 東北センター賞
クリエイティブデザイン学科	スマートフォンアプリ開発全国学生コンテスト「てんでんこラリー」チーム	優秀賞
経営コミュニケーション学科	日刊工業新聞社主催 キャンパスベンチャーグランプリ2013 東北エリア最終選考会	努力賞

〔個人〕

氏名(学科・学年)	大会名または活動内容	成績など
関本 勇哉(建築学科4年)	第45回東北学生アーチェリー王座決定戦	2位
高橋祥太郎(建築学科2年)	第35回東北学生アーチェリーフィールド選手権大会	2位
菅田 義輝(情報通信工学科1年)	第45回東北学生アーチェリー新人選手権大会	新人賞
上條 大樹(環境エネルギー学科1年)	第38回東北学生アメリカンフットボールリーグ戦2部	新人賞
伊藤 圭亮(経営コミュニケーション学科4年)	仙台六大学野球春季リーグ戦	最多打点賞 指名打者賞
菊地 和成(経営コミュニケーション学科1年)		最優秀新人賞
佐藤 裕二(経営コミュニケーション学科3年)		二塁手賞
伊藤 慎也(都市マネジメント学科2年)	第47回少林寺拳法全日本学生大会：男女茶帯の部	ベア第4位
	第43回少林寺拳法東北学生大会：男子茶帯の部	ベア第1位
	第43回少林寺拳法東北学生大会：男女単独演武茶帯の部	第3位
伊藤 彰則(情報通信工学科2年)	東北学生ソフトテニス新人大会	準優勝
阿部 凌太(環境エネルギー学科1年)	東北新人学生バドミントン選手権大会	個人戦ダブルスB 第1位
梅木 亮太(環境エネルギー学科1年)		
那須 玄(都市マネジメント学科2年)		個人戦ダブルスB 第2位
鴉橋 雄紀(都市マネジメント学科2年)		
青柳 宏史(知能エレクトロニクス学科4年)	第50回宮城県芸術祭・写真公募展	入選
佐々木 優(建築学科3年)	第17回JIA東北建築学生賞	最優秀賞
相澤 那樹(建築学科4年)	Build Asia Live2013	3位
	Build Live Japan2013	環境設計賞
佐藤 春菜(クリエイティブデザイン学科3年)	コンケラー・学生デザインコンテスト2013-14	佳作
安田 亜美(クリエイティブデザイン学科3年)		佳作
岡崎 真由(安全安心生活デザイン学科4年)	木になる文具・食器等デザインコンクール	最優秀賞受賞 作品の商品化

団体の部

準硬式野球部



悔しさをバネに1部昇格!

こんの しげあき
今野 成彰

都市マネジメント学科 2年

準硬式野球部設立以来ずっと1部で戦ってきましたが、24年度秋季リーグ戦で2部に降格し、とても悔しい思いをしました。その悔しさを胸に冬、夏と練習に励みました。その結果、25年度秋季リーグ戦で優勝、1部2部入れ替え戦を勝ち抜き、2季ぶりに1部に昇格することができました。

4月からの春季リーグ戦では1部残留を目指すだけではなく、1部でも優勝して全国大会の東北代表になれるようにチーム一丸となって練習に励もうと思います。



環境学生サークル たんぽぽ



感謝と抱負

あべ やまと
阿部 大和

環境情報工学科 3年

このような賞をいただき、メンバー一同非常に嬉しく思っています。選出していただき、ありがとうございます。今年度は環境教育活動やエコ芋煮会など、地域の方と楽しく触れ合えるような活動を行いました。また、本学学生の環境意識向上のために写真展や大学祭での活動にも力を入れました。

26年度も受賞できるように、さらに活発に楽しく活動をしていきたいと思ひます。今回の受賞を契機に、持続性の高い団体を目指していきたいと思ひます。



個人の部

アメリカンフットボール部



信頼されるキッカーに

かみじょう たいき
上條 大樹

環境エネルギー学科 1年

今回、2部新人賞を受賞することができ大変嬉しく思ひます。私が任されているポジション、「キッカー」は相手の守備に関係なく、遠くから点数をとることができます。しかし、蹴ったボールがゴールに入らなかった場合、相手にボールを渡すことになってしまうので、百発百中の正確なキックが要求されます。

昨年度は、なかなか蹴るチャンスがありませんでしたので、今シーズンはチームメイトから「任せた」と信頼されるような選手になれるよう、日々精進したいです。



建築学科



今までの努力が認められた「JIA東北建築学生賞」

ささき ゆう
佐々木 優

建築学科 3年

私は平成25年10月に開催された「JIA東北建築学生賞」に設計課題で考えた「丘のある小学校」を出品し、最優秀賞を受賞することができました。設計コンペにおいてはCADが主流の現在、1年生の頃から味わいある手描きの図面にこだわって制作してきましたが、本作品で競い合えるか不安でした。

しかし、審査員の方から「最も温もりを感じる作品だった」と講評をいただき、今までのこだわりは無駄でなかったのだととても嬉しく感じました。



◆本学主催 合同企業説明会の開催報告

就職部

就職活動中の学部3年生、修士1年生を対象とした本学独自の合同企業説明会を、1月30日（木）、31日（金）の2日間、仙台市内にある仙台国際ホテルにおいて開催しました。

この合同企業説明会には、過去約5年間に本学学生の採用実績がある企業・団体279社が参加しました。

採用担当者の方からは「東北工業大学の学生を採用したい」という意欲が感じられ、企業説明を受ける学生・大学院生は真剣に耳を傾けていました。

また初日午前には、合同企業説明会に先立って進路指導集会が行われ、宮城光信学長、千葉則行就職部長の挨拶に引き続き外部講師による「2015年就職戦線の現状とこれから」と題した講演が行われました。昨年12月解禁以降、初めてこうしたイベントに参加した学生もいて、かなり刺激になったようです。



合同企業説明会会場

◆土木の風物詩 第38回フットサル大会

都市マネジメント学科

都市マネジメント学科（旧土木工学科）では、4年生の研修がピークを迎える時期に気分転換を図る目的で、昭和51年に第1回研究室対抗フットサル大会を立ち上げました。

当時は大所帯でしたので参加チームも20を数え、大会は4日間という長丁場で行われたため、最終日は運営する教職員、選手も疲労困憊で決勝戦はまさしく体力と気力の勝負となりました。また、研究室対抗ということで試合は大変エキサイトし、幾度か審判員が止めに入る一幕もあり、研修以上に真剣に取り組む姿がこの大会では毎年見受けられました。

大会の存続が危ぶまれた年もありましたが、学生は、普段の学生生活では見られない一面を出してくれますので、高齢化した教職員一同「継続は力なり」をモットーに、老体に鞭打って今後も絶やさず続けていきたいと思います。



狭いコートは何度も往復するフットサル。7分ハーフも「超キツイ」ようです。

◆「残したい日本の音風景」の再生活動に協力

やまだ かずひろ
山田 一裕 環境エネルギー学科 教授

全国の水環境保全に取り組む「アクア・ソーシャル・フェス! 2013」（トヨタマーケティングジャパン主催）が、「残したい日本の音風景」百選で知られる、北上川河口ヨシ原（石巻市北上町）の再生に向けて、生き物観察、ヨシ移植、ヨシ刈り活動などに取り組みました（2013年6月8日（土）、12月7日（土））。

山田一裕研究室では、当地で学術研究に取り組んでいることもあり、講師や学生が活動支援に関わり、本学の環境学生サークルたんぼのメンバーも参加してくれました。

ヨシ原は多くの動物のすみかになっていると同時に、茅葺き業など地域の生業を支え、訪れた者には憩いを提供してくれる所です。汽水域で育つ良質なヨシを育てるための次の取り組みが待ち遠しいです。



3メートルを超えるヨシを刈る作業、慣れないカマが心配

◆平成26年東北地区若手研究者研究発表会開催

工藤 栄亮 平成26年東北地区若手研究者研究発表会 事務局
情報通信工学科 教授

東北地区若手研究者研究発表会は、学部学生、大学院生など若手研究者を対象に「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」に関する最新技術の紹介、情報交換を行うことを目的として、平成15年から毎年開催されています。これまで仙台地区の大学が持ち回りで開催しており、今年は平成26年2月28日（金）に、昨年に引き続いて東北工業大学八木山キャンパスにて開催されました。参加者数は200名を越え、69件の口頭発表と53件のポスター発表が行われ、本学からも60件以上の発表があり、熱心な議論が交わされました。本学学生がスタッフとして協力し、無線LANサービスも提供しました。最後に開催にあたりご協力いただいた関係各位に御礼申し上げます。

<http://www.ice.tohtech.ac.jp/wakate26/index.html>



ポスターセッション

◆荒浜の草木を活かした染色技法による被災者生業再生につながるワークショップ開催

伊藤 美由紀 安全安心生活デザイン学科 准教授

今回のワークショップは、安全安心生活デザイン学科菊地良寛教授が代表を務める「名取川流域でつなぐ復興支援「わ」プロジェクト」（手のちからプロジェクト）です。

大雪の2月8日（土）、東通仮設住宅にてクリエイティブデザイン学科盧慶美准教授を講師に、両学科教員、学生18名と住民30名で、仙台市若林区荒浜に冬季植生する植物（エニシダ・マサキ）を使い、木綿生地や熊野彰氏（ししごとAKIU代表）が提供した木材に染色を行いました。

作業中は盧慶美准教授から身体が温まるショウガとナツメのお茶も振る舞われ、参加者は意欲的に成果品を作り上げ、和やかに楽しく時間を過ごし元気が出る体験となったようです。

参加した方からは、四季折々の植物での染色技法を習得し、荒浜ブランドを目指す生業再生に繋がりたいという声も多く、今後の活動の継続を確認しました。



仕上がっていく過程を楽しむ

◆東北工業大学地域防災サポートチーム結成式

佐藤 三之 教職課程センター 教授

本学地域防災サポートチーム結成式が、平成25年12月21日（土）太白区消防署八木山出張所において行われました。丘陵地域の八木山は、住民の高齢化が進むなかで大規模災害時の備えがいつそう必要になっています。こうした状況を踏まえ、地域にある本学が学生の若い力をもって防災に協力するためチームを結成しました。

メンバーは、現時点で学生105名（硬式野球部員、地域安全安心センター学生、ボランティア部員他）、教員4名となっています。

主な活動としては、防災知識の普及啓発、災害発生時の自主防災組織活動の支援が挙げられます。

結成式には仙台市太白消防署長山口久良氏、同署八木山出張所長杉澤修氏、八木山消防分団員と署職員の方、本学から石川善美副学長および関係教員と学生が出席。式後に、消防団の入団式が行われ、教員1名と学生3名が入団しました。

大学と消防署の連携は、初めてのことで、式での挨拶からはチームへの大きな期待が感じられました。



地域防災サポートチーム結成式

◆石巻河北長面浦の漁村再生活動が受賞

星 翔太朗 安全安心生活デザイン学科 3年 大沼正寛研究室

長谷川 陽恒 安全安心生活デザイン学科 3年 大沼正寛研究室

復興庁他の主催による「eco japan cup & REVIVE JAPAN CUP 2013」の表彰レセプションが、2014年2月14日（金）に東京都江東区にあるホテルイースト21東京にて、開催されました。

この賞は、エコビジネスや新しい東北への萌芽を育てる目的で設立されたものであり、今年度は安全安心生活デザイン学科大沼正寛研究室が、東北芸術工科大学竹内昌義教授らとともに支援している一般社団法人長面浦海人の「さとうら再生計画」が、ライフスタイル部門で入選し、受賞式に出席いたしました。

宮城県北上川河口域の内海・長面浦は、豊かな自然に囲まれ、上質な牡蠣が特産品ですが、東日本大震災で甚大な津波被害を受けました。漁業者が漁業の復興とともに、自然資源の回復をめざして、一歩一歩活動が続けていることが評価されました。

受賞の翌日は大雪の中、東中野駅前（東京・中野区）で我々も手伝って試食会を開催。来客の笑顔で温まって、濃密な時間を過ごしました。



2月14日（金）東京・東陽町での受賞記念撮影

平成25年度学位記授与式

平成25年度学位記授与式が、3月20日(木)に八木山キャンパス講堂(体育館)において挙行されました。ご父母、教職員、ご来賓列席のもと学部生624名、大学院博士(前期)課程27名の代表に、宮城光信学長より学位記が授与されました。

学部生代表の安全安心生活デザイン学科 小坂浩輝さんと修了生代表の土木工学専攻 千葉祐太郎さんが、今後の決意と先生、友人、家族への感謝を込めた、答辞を述べました。

卒業生・修了生の皆さまのこれからのご活躍を祈念いたします。



平成25年度 学位記授与者数

学部 合計624名

工学部 合計428名

■知能エレクトロニクス学科 …119名
■情報通信工学科 …94名
■建築学科 …90名
■建設システム工学科 …54名
■環境情報工学科 …71名

ライフデザイン学部 合計196名

■クリエイティブデザイン学科 …63名
■安全安心生活デザイン学科 …72名
■経営コミュニケーション学科 …61名

大学院 合計27名

工学研究科 博士(前期)課程 合計24名

■電子工学専攻 …3名
■通信工学専攻 …5名
■建築学専攻 …9名
■土木工学専攻 …2名
■環境情報工学専攻 …5名

ライフデザイン学研究科

博士(前期)課程 合計3名

■デザイン工学専攻 …3名

topics



「ISO 学生サポーター」/ 「たんぽぽ」メンバー募集中!

ちば ひろき
千葉 大貴 環境エネルギー学科 2年

「ISO学生サポーター」は、ペットボトルキャップの回収によるリサイクルの促進、消灯活動による省エネ推進、大学祭での容器リサイクルの促進など、主に学内を中心に活動を行っています。また、大学近隣地域の清掃活動も定期的に行っています。

さらに、そのメンバーが中心となり、2012年度から新たに環境学生サークル「たんぽぽ」を立ち上げ、他大学の環境団体や企業などと連携することで、学内外の環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

現在は両団体が一体となり、総勢40名で活動中です。

八木山・長町両キャンパスでの活動を活性化させるためにも、学科学年を問わず随時メンバーを募集しています。興味のある方はぜひ下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

■八木山キャンパス

1号館3階 企画調査課(ISO推進事務局)

10号館3階 環境エネルギー学科事務室

■長町キャンパス

4号館1階 長町校舎事務室

column

ウェルネスセンター 講師 カウンセラー もりた けんいち
森田 健一



“私”という謎：自己紹介に代えて

本号から連載させていただくことになりました、カウンセラーの森田と申します。私は「心の専門家」として本学で勤務していますが、思い返せば「夢は誰が作るのか」という問いからその道ははじまりました。高校生だった当時、誰に聞いても「それは“私”だよ」と答えられましたが、夢の中では“私”は与えられた世界の中におり、目覚めた後もそんな世界を作った記憶はありません。でも、確実に“私”の内側で起きたことは間違いありません。一体“私”とはなんなのでしょうか。

日常でもたとえば、「がんばるぞ」という気持ちと「めんどうだ」という気持ちが同時に共存し、結果的に行動に移せないことはよくあります。他者から見たら「意志が弱いだけだ」と一刀両断ですが、「がんばるぞ」という気持ちも本音であり、「めんどうだ」と思わせる一方の“私”に辟易しています。誰も好んで「めんどうだ」などと思いたくないのです。では、なぜそんな思いが浮かぶのでしょうか。

その背景には一人ひとりの生きてきた「物語」があり、心の中でさまざまな“私”のせめぎあい起きています。夢を作る“私”のような、“未知の私”が心の中に生きているのです。「意志の力」だけではどうにもならないとき、そうした“私”を見つめることが次へのヒントとなる、と私は考えています。たまに立ち止まって、さまざまな“私”の声にじっくり耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

前期の主な行事予定(平成26年度)

- | | |
|----|--|
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・3日(木) 入学式 ・4日(金)～9日(水) オリエンテーションと健康診断 ・10日(木)～7月29日(火) 前期授業 |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・28日(土) オープンキャンパス |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・5日(土)・12日(土)・19日(土) 前期補講日 ・23日(水) 定期試験時間割発表 ・30日(水)～8月4日(月) 前期定期試験期間 ・26日(土) オープンキャンパス |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・5日(火)～9月10日(水) 夏季休業 |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・2日(火) 前期試験成績発表/追再試験時間割発表 ・3日(水)・4日(木) 前期補習 ・5日(金)～10日(水) 前期追再試験 |

訂正とお詫び

前号の冬号(No.272)に下記の誤りがありました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。
P.09 本学のポスターセッション模範発表者下から5行目
誤
「海水検索方法の開発」
正
「海水検出方法の開発」

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1 東北工業大学 広報室
TEL: 022-305-3144 FAX: 022-305-3146 E-mail: kohositu@toitech.ac.jp